

新幹線車内への特大荷物置場の設置と事前予約制の導入 乗務員にさらなる負担が！

会社は8月29日、「新幹線車内に大きな荷物を持ってご乗車されるお客様が増加しています。」として「これに備え、東海道・山陽・九州新幹線では、車内に一定以上の大きさの荷物を持ち込む際は、今回設置する荷物置き場を指定席とセットで予約したうえでご乗車いただく事前予約制を導入します。」とホームページで発表しました。

これまでJR東海労は経営協議会などの場で会社に、荷物置き場の確保を求めてきましたが、会社は「具体的に示せるものはない」としていました。

会社発表によれば、特大荷物置場の設置箇所は1両あたり当面5席分しかありません。これで来年開催されるオリンピック・パラリンピックに向けた乗客の増加と持ち込まれる荷物の増加に対応できるとは到底思えません。

事前予約なく特大荷物を持ち込まれた場合には、持込手数料として1,000円をいただくとしていますが、乗客とのトラブルなど混乱の原因にもなりかねません。現在でも乗務員はデッキなど車内に放置された荷物の対応に大変苦勞しています。このままでは「新幹線車内業務見直し」によって業務量が増大している乗務員の負担がさらに増大することになります。

JR東海労は、現場の社員にばかり負担のかかる施策には反対です。車内に荷物室を増設することや荷物棚の改善など抜本的な対策を求めます。

また会社は、今回の特大荷物置場の設置と事前予約制の導入が、乗務員の業務内容の変更に関するものであるにもかかわらず、JR東海労には何の説明もしていません。労働組合を軽視する会社の姿勢は労使の信義則に反するものと言わざるを得ません。

JR東海労は会社に対して、特大荷物置場の設置と事前予約制の導入について、詳細な内容の説明と解明、車内に荷物室を増設するなどの抜本的な対策を求め、団体交渉を早急に開催するよう申し入れます。

オリンピック・パラリンピックに向けて
会社は抜本的な対策を行うべきだ！